

令和3年度（令和4年度実施）各学部・研究科自己点検評価結果集計表（毎年実施分）

分析項目		検証		社会システム経営学環
番号	内容	番号	内容	
2－3－1	学部研究科において、内部質保証の取組（PDCA－Cycle）が行われていること	検証1	情報を収集し分析した事例はあるか（C, A）？ ○：ある　－：ない	○
2－3－2		検証2	実施計画を立てた事例はあるか（P）？ ○：ある　－：ない	○
2－3－3		検証3	改善につながった事例があるか（D）？ ○：ある　－：ない	○
2－5－4	授業の内容及び方法の改善を図るためのファカルティ・ディベロップメント（FD）を組織的に実施していること	検証1	FD等を実施しているか？ ○：実施した　×：実施していない	○
		検証2	FD等の実施が授業内容及び方法の改善につながった事例があるか？ ○：事例がある　－：明確な改善事例は把握していない	○
5－2－2	学生の受入が適切に行われていること	検証1	入学者の基礎学力が昨年度に比較して同等あるいは向上しているか？　学部の場合、基礎学力には教学IR室が提供する大学入学共通テストの得点率も参考にすること。（本検証は、博士後期課程及び博士課程を除く。） ○：点検した　×：点検していない	○
		検証2	検証に基づいて入学者選抜の変更を検討（実施も含む）している事例があるか？ ○事例がある　－：事例がない	－
5－3－1	実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないこと	検証1	学部では100%≦実入学者数／入学定員≦110%（105%）となっているか？ ○：なっている　×：なっていない	○
		検証2	研究科では70%≦実入学者数／入学定員≦130%　となっているか？ ○：なっている　×：なっていない	該当なし
6－3－2	授業科目の内容及、授与する学位に相応しい水準となっていること	検証1	シラバスを点検したか？ ○：点検した　×：点検していない	○
		検証2	シラバスに「到達すべき目標」が箇条書きで記載されている授業科目の割合（記載率）は？ 記載率（100%）＝記載されている科目の総数／授業科目の総数	91.0%
		検証3	記載率が低いと判断する場合は、記載率を高める取組を実施し、改善が図られたか？ ○：改善されている　△：取り組んでいるが改善にはつながっていない ×：取り組んでいない　－：記載率は十分に高いと判断している	記載率は十分に高い
6－6－3	成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること	検証1	シラバスに記載されている「到達すべき目標」に照らして成績評価を行うことを組織的に確認しているか？ ○：確認している　×：確認していない	○
		検証2	成績評価を厳格にする取組を実施しているか？ ○：実施している　×：実施していない	○
6－8－1	標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること	検証1 検証2	学部・研究科の標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等を把握し、適正な状況にあることを確認しているか？ ○：適正な状況である　×：適正な状況ではない	
6－8－2	就職（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学の様況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること	検証1 検証2	本学統一の書式または独自の書式によって就職状況を分析したか？ ○：実施した　×：実施していない	
		検証3	分析によって進路状況等が大学等の目的及び学位授与方針に則して妥当なものであること等を確認しているか？ ○：確認している　×：確認していない	
6－8－3	卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること	検証1	卒業（修了）時の学生から意見聴取を行っているか？ ○：行っている　×：行っていない	
		検証2	学習の達成度や満足度に関するアンケート調査、学習ポートフォリオの分析調査等、意見聴取を行い、学修成果があがっていることが確認できたか？ ○：確認している　×：確認していない	

令和3年度(令和4年度実施) 各学部・研究科自己点検評価結果集計表(毎年実施分)

<主な取り組み事例>

番号	部局名	内容
2－3－1	社会システム経営学環	・学生の個別面談を前学期は4月、後学期は9月に行い、ポートフォリオを用いた学修指導を実施した。それぞれの結果を教務・入試専門委員会及び教授会にて報告し、教員間で共有した。 ・授業評価アンケートを前学期は7月、後学期は1月に行い、集計結果を教務・入試専門委員会及び教授会にて報告し、教員間で共有した。
2－3－2	社会システム経営学環	・独自の授業評価アンケートを作成することに関して、教務・入試専門委員会において議論を重ねた。大学全体で実施している授業評価アンケートが同時に改訂を検討されていたことから、その内容が安定するまで時期をまちつつ議論を続けることとしている。 ・2020年度後学期からはじまるデザイン実習の体制について、いかに外部組織と連携できるかについて、議論された。
2－3－3	社会システム経営学環	・実践型の実習のパートナーとして、外部企業や組織とリアリティのある対象について取り組むことができるように、大学と外部組織の間で明確なNDAを取り交わすしくみをたて、参加する学生は全員NDAの同意書にサインをして参加することとなった。
2－3－1 2－3－2 2－3－3	社会システム経営学環	<特に優れた活動だと考える点や追加で説明したい点> ・第2回地域協議会(12月22日開催)において、5名の外部委員から、令和3年度に実施したマネジメント活動実習について評価を受けるとともに、次年度実施予定のマネジメント活動実習および3つのデザイン実習の内容、実施方法について助言を受けた。また、同日に「学生による実習報告会」を実施し、現場の視点での評価を受け、実習の内容、実施方法の改善の方向性を検討することができた。
2－5－4	社会システム経営学環	・令和3年度開講科目に関するシラバス、教育方法、成績評価(前学期開講科目)、教育課程の編成等の点検を11月に行い、12月15日にFD・SD「学生に対する対応ーシラバス及び学生の授業評価を踏まえてー」を実施し、令和4年度シラバスに関する注意事項・改善点を教職員および事務職員と共有した。参加人数18名(教員12名、事務職員6名)
5－2－2	社会システム経営学環	<特に優れた活動だと考える点や追加で説明したい点> 令和3年度の選抜方法の検証を行い、学校推薦型選抜Ⅱの受験者数増加を図るため、高等学校訪問や入学者選抜方法の説明会の実施等を積極的に行った結果、受験倍率は1.5倍から2倍へと増加した。
6－3－2	社会システム経営学環	・令和3年度開講科目に関するシラバス、教育方法、成績評価(前学期開講科目)、教育課程の編成等の点検を教務・入試専門委員会委員が11月に実施し、12月の教務・入試専門委員会にて報告した。改善点として、経費負担がある場合についてはシラバスに明記することなどがあった。
6－6－3	社会システム経営学環	・令和4年度シラバスに関する注意事項・改善点を教職員および事務職員と共有し、記載内容を確認した際、「到達すべき目標」に対する成績評価の方法が適切であるかどうかを全てチェックし、改善すべきと思われた点は相談の上改善した。